

## 自衛隊の歴史を写真でつづるフォトアーカイブ



昭和32年（1957年）7月25日、長崎県を襲った豪雨は一日夜にわたって降り続き、1日で588ミリを記録した。このため、諫早市では市の中心部を流れる本明川をはじめとするすべての河川が氾濫し、上流で発生した土石流が市内に流入。多くの田畑や民家、住民などを飲み込み、死者・行方不明者は諫早市で586人、長崎県全体では782人に及ぶ大災害となった。この災害で第8管区隊が出動し、行方不明者捜索、道路啓開などを行った。

昭和32年 諫早大水害

上の写真は朝雲新聞社の会員制サイト「朝雲アーカイブ」の新コーナー「フォトアーカイブ」に掲載しています。「フォトアーカイブ」は、朝雲新聞社が所蔵する膨大な写真データの中から、各時代のトピック的な写真を厳選、随時アップし、発足当時から今日の防衛省・自衛隊への発展の軌跡を振り返るコーナーです。

東京オリンピックや日航機墜落事故、阪神淡路大震災、カンボジア PKO といった大きな出来事だけでなく、訓練やイベント、1950年代の駐屯地・基地周辺の町並み、当時の隊員の生活ぶりまでを垣間見ることが出来ます。警察予備隊から保安隊、自衛隊に関わる戦後史の一面を写真でつづる朝雲新聞社ならではの企画です。